

# 1\_ 背景と目的

「現代では『家族』は名も実もない。あるものは個人だけである。」

黒澤隆、『個室群住居-崩壊する近代家族と建築的課題-』(1997)

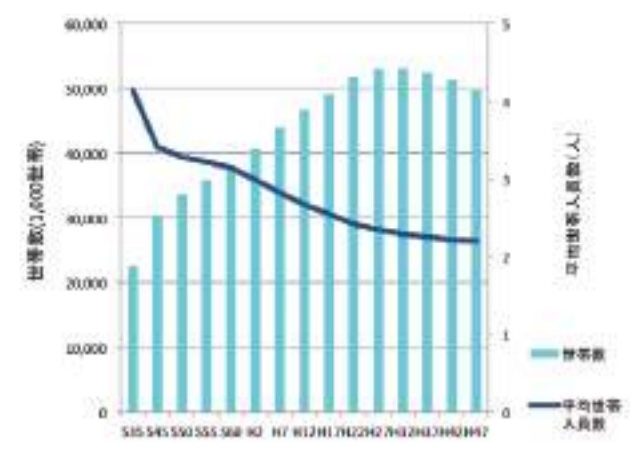


図1 世帯数と平均世帯人員数の推移 (出所:国勢調査)

「住まいを共有できるのは家族だけ」(中略)という神話が私たちの共同的な住まい方への想像力を制限してきたことを考えれば、むしろシェアのような居住「内」の共同性へと目を向ける意義は十分にある。」

久保田裕之、『シェアとポスト家族論』(2014/01)

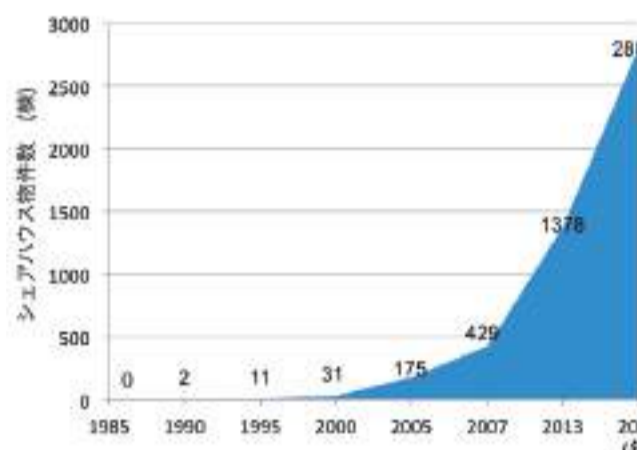


図3 シェアハウス物件数の推移 (出所:一般社団法人日本シェアハウス・ゲストハウス連盟 シェアハウス市場調査 2014年度版)

「『地域』というコミュニティがこれからの時代に重要なものとして浮かび上がってくるのは、ある種の必然的な構造変化である…」

広井良典、『コミュニティを問い直す』(2009)

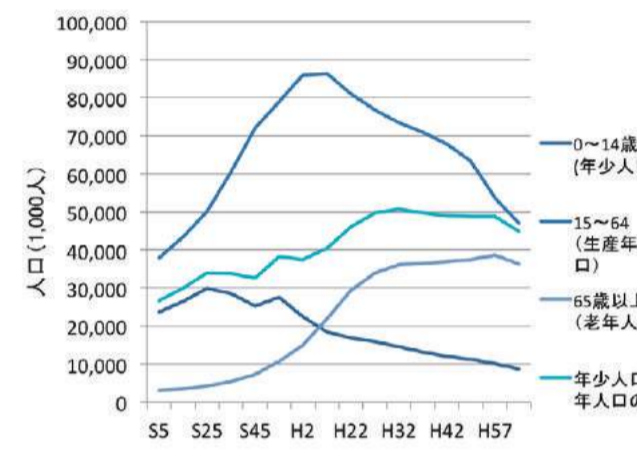


図2 年代別人口推移 (出所:統計局)

単身世帯の増加。  
個人としてどう暮らしていくのかを問われる時代となった。

シェアハウスの増加。  
集まって住むことの可能性に期待を抱く人々の増加。

日本の世代構成の変化。  
戦後の年少人口の増加に代わり、現代は老年人口がその割合を増やし、土着性がある世代が再び増加。

個人の時代であるが、それゆえどうやって人や地域とつながるのかを考える必要がある。  
集まって住む新しいかたちを提案する。



千葉県東金市における多世代型シェアハウス  
集まって住む新しいかたち

# 2\_ 調査

居住者属性  
社会人 / 学生

所在地  
東京都新宿区

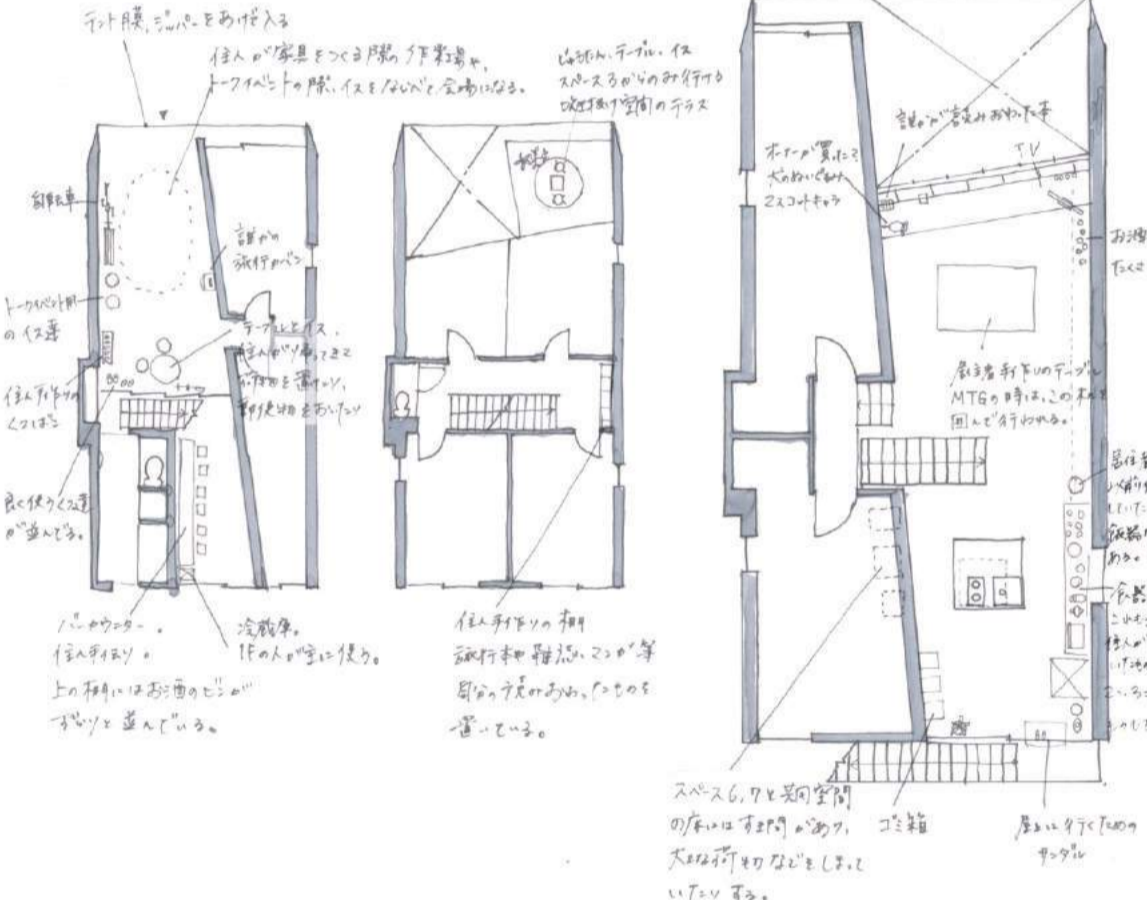
居住者人数  
女 5 男 3



n=8

ヒアリング調査結果  
「(近隣住民と)あまりコンタクトはとらないが、どのような人が住んでいるかは知っており、会えば挨拶はする。近隣を呼んでのイベントなどは特になし。」  
(Share yaraicho, 女, 40代, 社会人)  
→都心の事例では、地域交流があまり見られない。

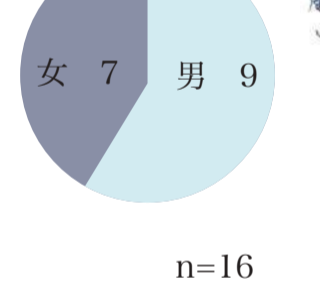
## 事例1 Share yaraicho



居住者属性  
社会人 / 学生

所在地  
栃木県宇都宮市

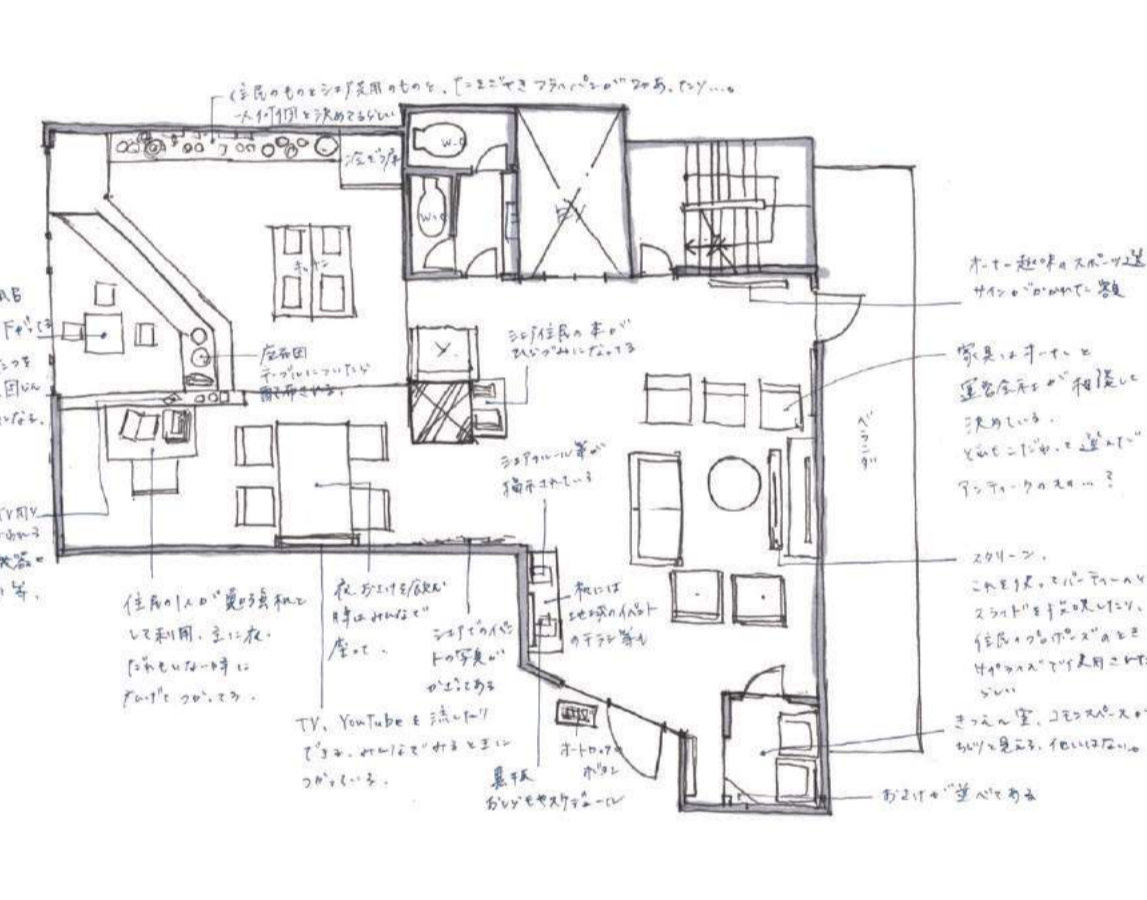
居住者人数  
女 7 男 9



n=16

ヒアリング調査結果  
「日常動線上に共用部分があることは苦に思わない。挨拶ができる。帰ってきたときに誰もいないと寂しかったりする。」(宇都宮シェアハウスK, 男, 30代, 社会人)  
「居住者でない人がくるとは基本的に歓迎。」(宇都宮シェアハウスK, 女, 20代, 社会人)  
→帰宅したときに人かいて自ずと居住者交流が行われる等、偶発的である場合が多い。共用空間に居住者以外の人かいても、特に気にならない傾向がある。  
「知り合いのいない土地だったためシェアを選択。誰かいるため安心できる。」(宇都宮シェアハウスK, 男, 30代, 社会人)  
→地縁を求めてという入居理由が多い。積極的に地域交流を行う傾向がある。

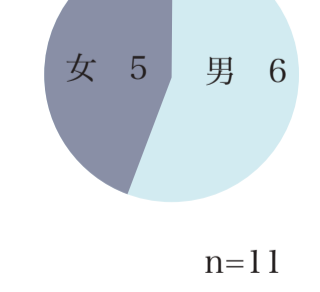
## 事例4 宇都宮シェアハウスK



居住者属性  
学生

所在地  
群馬県前橋市

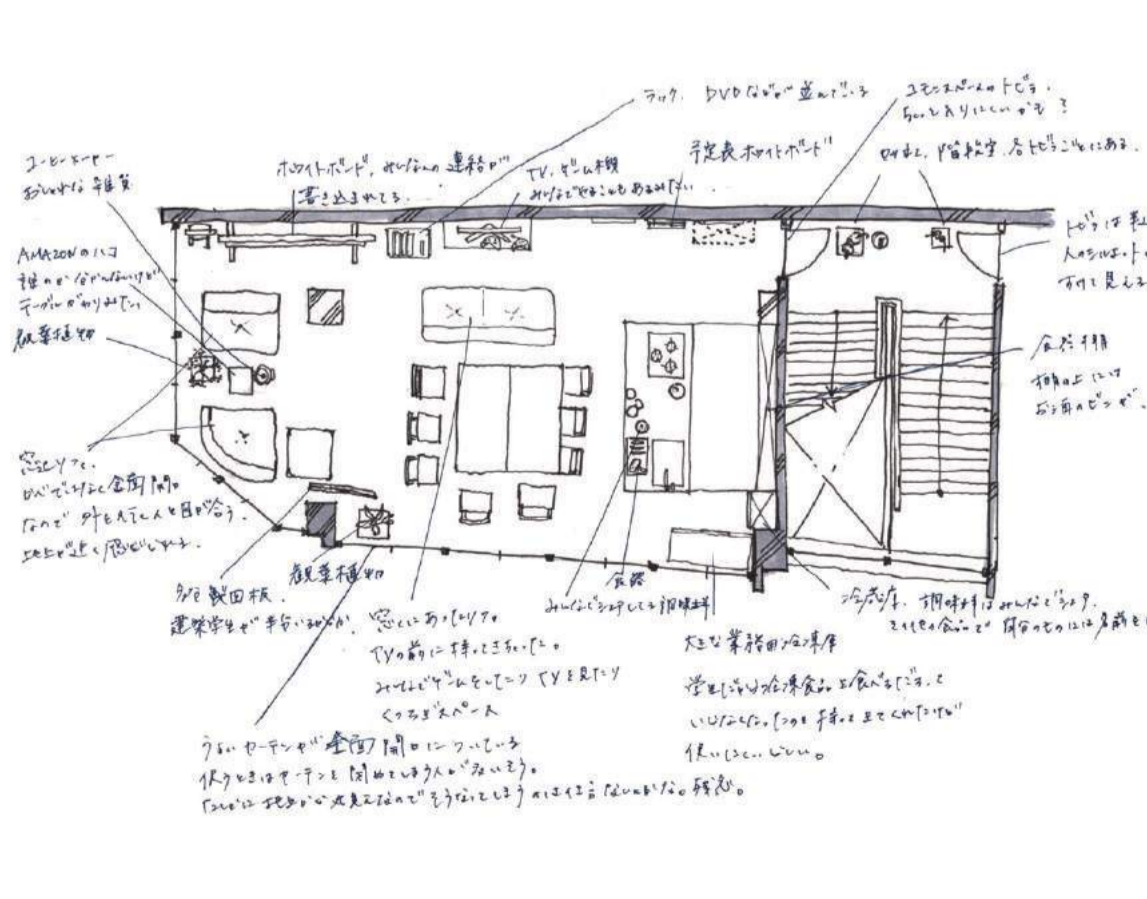
居住者人数  
女 5 男 6



n=11

ヒアリング調査結果  
「共用空間では1人で居る事も多い。たまにみんなで予定を合わせて集まるが、普段はなかなか集まらない。」(前橋シェアハウスB, 男, 20代, 学生)  
→平日・休日の区別がなく生活時間が不規則。居住者交流はイベント等計画的である。  
「(地域活動は)学生にとっても多世代交流が出来る良い勉強になっているのでは。学生にとってここが第二の故郷になれば良い。」(前橋市在住者, 男, 自営業)  
→地域活動によって学生にとっては地域とのつながりを得る事になり、地域にとっては若者の力、活気を得ることにつながる。

## 事例3 前橋シェアハウスB



居住者属性  
高齢者 / 学生 / 児童

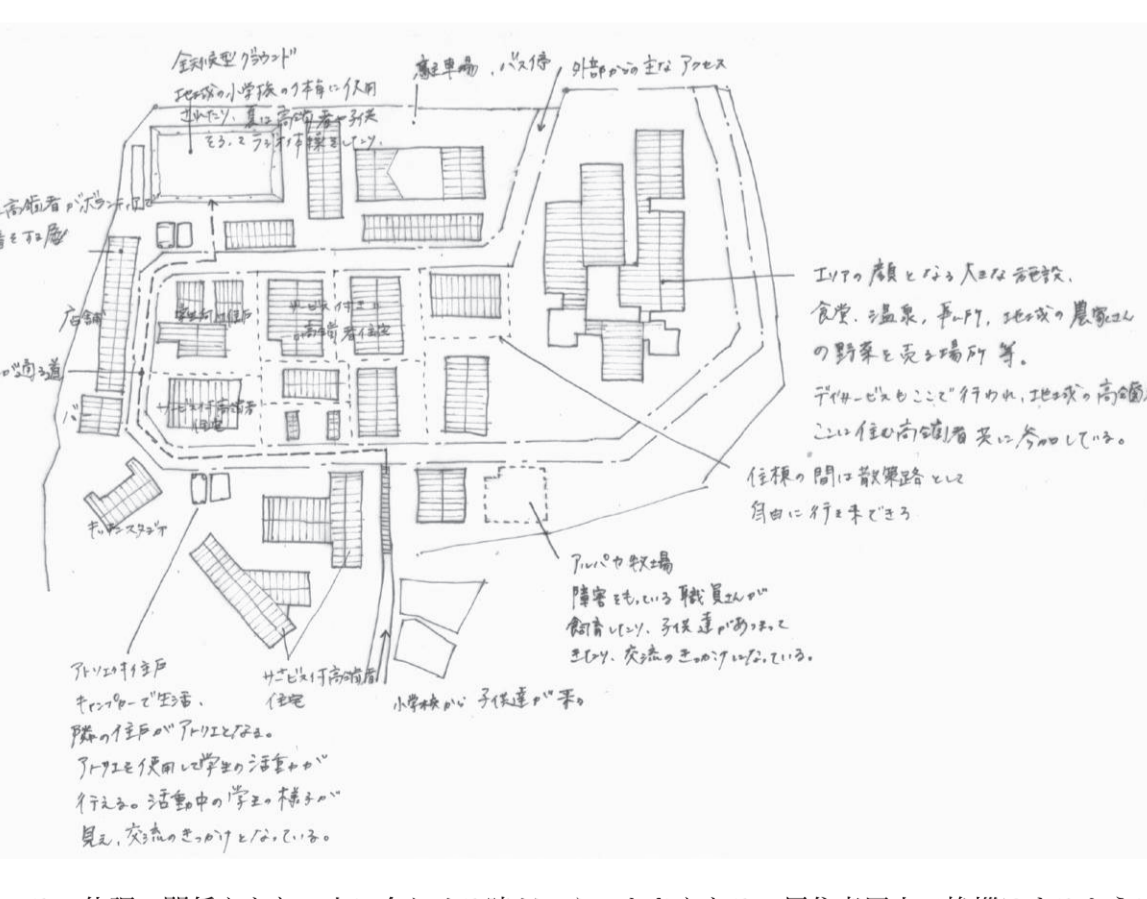
所在地  
石川県金沢市

居住者人数  
居住者 40名



ヒアリング調査結果  
「個々で自分の時間を過ごしている。体調の関係もあり、人に合わせる時がつかいときもある。居住者同士で挨拶はするようにしている。」(複合施設SK, 男, 70代, 高齢者)  
→共用空間での行為が少ない。計画的な交流よりも偶発的な交流を必要としている。趣味の行為が多岐に渡り、地域に積極的に出かけていって、それぞれの仲間と過ごす傾向が強い。  
「子供の通学や施設利用など、街の中に住んでいる感覚がある。今までの生活の延長線上にこの生活があると感じている。」(複合施設SK, 男, 70代, 高齢者)  
「ラジオ体操など子どもと一緒にすることがある。他の居住者と会うきっかけでもある。」(複合施設SK, 男, 60代, 高齢者)  
→居住者間の交流を発生させる可能性。地域と事例とに交流を発生させる可能性。

## 事例4 複合施設SK






### 3\_ 分析と考察


分析 / 属性・所在地の特徴

所在地



都心


入居の理由は様々になるが、人との付き合いを求めている人もそれは物件内の交流に留まる傾向が強い。



地方都市


転勤で地域に来た人、大学入学で地域に来た人など他地方から訪れた人が地縁を求めて入居する場合がある。その人々は人とつながりをつくるため積極的に居住者間交流・地域交流を行う可能性がある。

居住者属性




高齢者

共用空間での行為が少ない傾向がある。趣味が多岐に渡り、地域に出かけるきっかけとなっている。偶発的な交流を必要としている。




社会人

平日・休日の生活リズムが比較的規則的である。休日は生活行為が多くなる。在宅時間が長いほど生活行為も多く交流のきっかけとなる。



学生

平日・休日の区別がなく生活のリズムが不規則である。一定期間で入れ替わりが起こる非常に流動的な存在である。



子ども

居住者間の交流を発生させる可能性がある。地域とシェアハウスとの間につながりをつくる可能性がある。

考察 / 設計目標

地方都市のシェアハウスには、居住者同士だけでなく、地域とのつながりを求めるニーズがある事が分かった。また、地方都市では地域住民の高齢化が起きている。このことから、地域住民を交えた地域交流の可能なシェアハウスを提案する必要があると考える。

地方シェアハウス  
地縁、地域とのつながりの必要性

地方中心都市の  
高齢化  
人とのつながり、若い人の力の必要性

↓

多世代

土着性、地域とのつながりを構築する可能性がある

↓

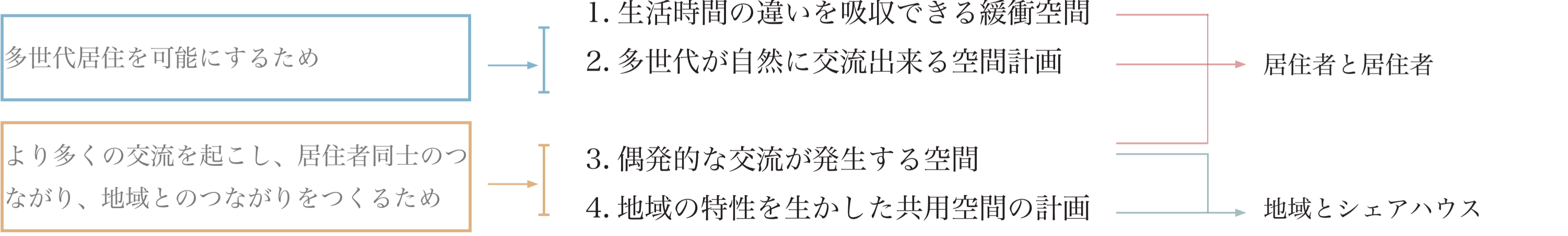
つながりを再考する集まって住む新しいかたちを提案するため地方都市を敷地とする。そして、地域交流を行えるシェアハウスとして、居住者属性を地域交流の可能性がうかがえた高齢者と子どもを含めた多世代とする。

↓

設計目標：  
地方都市における多世代型シェアハウス

### 4\_ 設計提案のためのまとめ

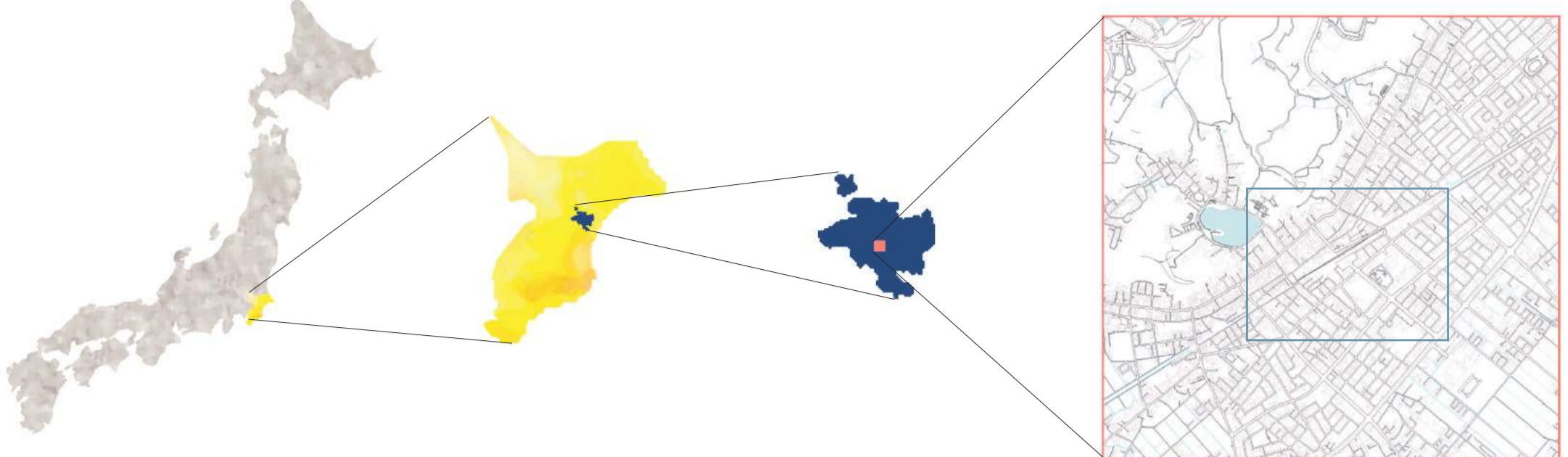
分析と考察の結果を受け、以下のような空間が必要と考えられる。そして、その空間では居住者同士、地域とシェアハウスのあいだに関係性を構築する空間と考える。



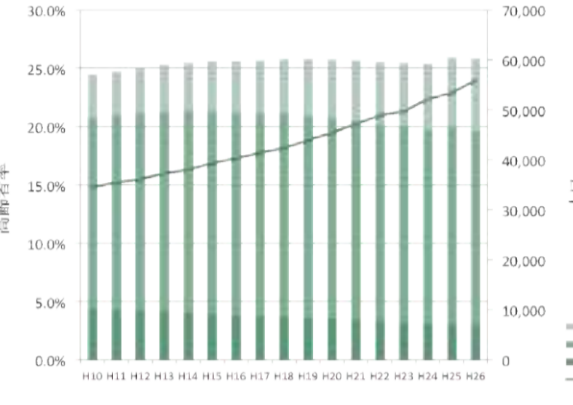
居住者と居住者、地域住民と居住者、それぞれをつなぐ"間(あいだ)"を再考する必要がある。

### 5\_ 敷地調査 / 千葉県東金市

敷地を千葉県東金市とする。敷地へは東京から直通の高速バスで1時間と立地が良い。統計調査からは、シングルペアレントの割合が多く、大学生の単身者の存在、また、高齢化する地域の様子が推測される。また、近隣住民のヒアリング調査からは移住者の存在、また家族世帯の移住の希望が窺えた。



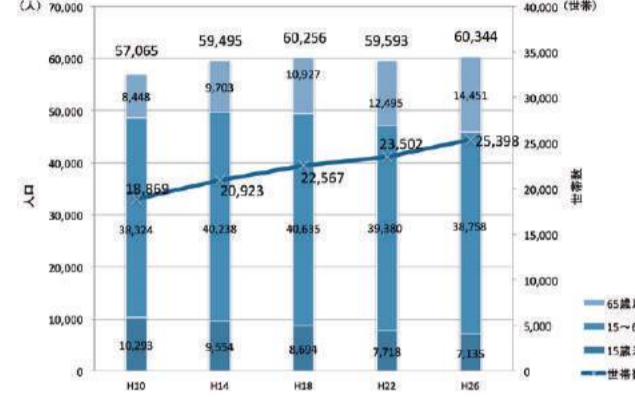
東金市の高齢化率の推移 出典：統計局



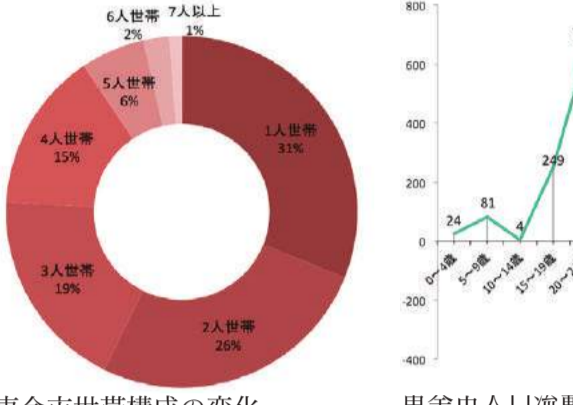
東金市と全国の単身者率他 出典：国勢調査

	総人口(A)	高齢者率	単身者率	身障し(18歳未満)の子供から成る世帯(世帯数)	単親世帯割合
全国	128,057,352	19.1%	13.1%	4,522,845	8.7%
東京都	13,159,388	20.1%	22.2%	480,469	7.5%
千葉県	9,049,331	20.1%	14.3%	311,290	8.1%
千葉市	6,023,594	21.6%	12.8%	205,032	8.2%
東金市	61,751	20.7%	12.3%	2,176	8.6%

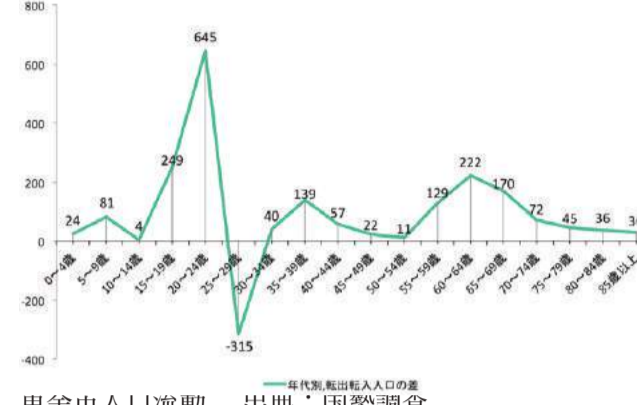
東金市人口と世帯数の変化 出典：国勢調査



東金市世帯構成の変化 出典：国勢調査



東金市人口流動 出典：国勢調査




東金市も全国と同様に高齢化が急速に進んでいる。

シングルペアレントの割合が全国や都心に比べ、若干多くなっている。

世帯数の増加、高齢者の増加が窺える。このことから、単身世帯の増加、世帯人数の減少が推測される。

1人世帯、2人世帯が半分を占めており、世帯人数の縮小が窺える。

東金の大学へ進学する学生のため15-24歳で急激に人口増加・減少が見られる。また都心の大学、会社から人が戻って来るため30代後半と60代前半で転入人口が増加すると推測される。



凡例

- 商業施設
- 公共施設
- 医療施設
- 空き家
- 駅

八鶴湖、山王台公園、地区集会所、東京直通高速バス停、東金駅、図書館、市役所、東金中央公園、大型ショッピングセンター、市役所、小学校、国道126号(バイパス)

敷地の魅力は自然が豊か、環境が良好、立地が良い。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

保育園や産婦人科が揃っているので子育てしやすい(不便ではない)。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

昔は旧街道を中心に栄えた一本町であった。今では鉄道が中心となり南北に分かれ、北側は古くから栄えた町並みが見られる。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

東京に仕事のある方も、東京からの直通バスで1時間という立地は非常に良い。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

野原は農園に買いたい。近隣の農家はからかきもしている。近所付き合いが楽な大農園と聞ける。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

若い人は都心より少ない。お孫子の準備等、都心に住んでいなくても子供が育つ環境が整っている。東金では高齢者が多いと聞ける。お孫子、孫に会うことで地域のつながりを感じたい。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

移住してきて住居探しのために10年かかった。きっかけは知り合いの子。10年、10年かかると聞ける。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

今は健康だと思える。孫が入院をしていて、自分が動かないでほしいと思う。みんなが助けてくれる。お金がないと施設に入れない。子供をあてにしたいが、現実的には面倒を見てもらいたくない。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

前庭から健康のために大層で日課の散歩をする。八鶴湖までのルートは住む。お孫子、孫に会う。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

電車が1時間に3-4本しかなく不便。ITコマ、自転車、高齢者、約70%)

電車で通学している高校生が駅舎の中で笑っている。電車を待っている。そうやって学生が電車を待っている場所が駅周辺にあれば良い。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

お孫子が入って来てくれると嬉しい。入って来てほしいと思う。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

国道沿いにはばらばら病院も併存している。車があれば困らないが、車がないと不便。(注: 東金市、農業従事者、約70%)

a, 南側ロータリーの様子



b, 北側アーケードの様子



c, 国道126号(バイパス)



d, Site A/アパート1



e, Site B



f, 国道119号(旧街道)





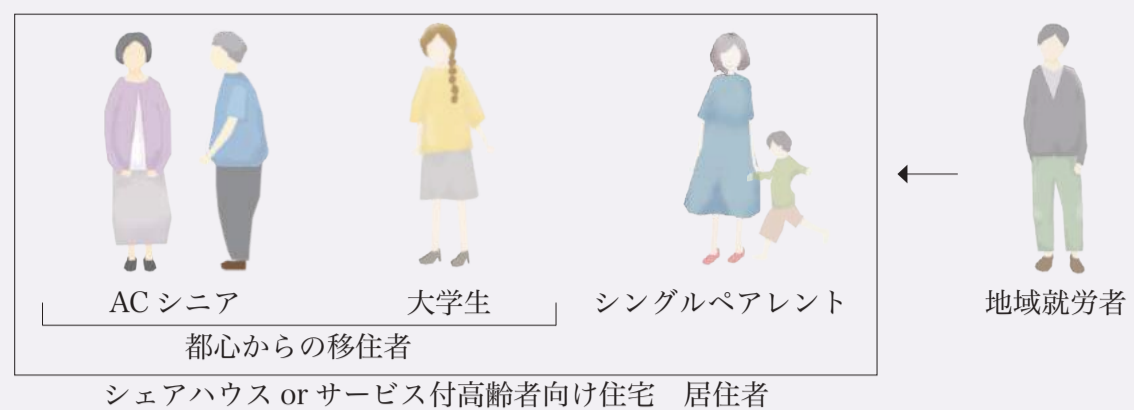
左図、黄色の部分敷地として設計を行う。Site A・Bの敷地概要については以下の表のとおりである。なおアパート1 (Site C) については、リノベーションとして共に設計、改修を行うものとする。

敷地	Site A	Site B
所在地	千葉県東金市東金	
用途地域	商業地域	
防火	準防火地域	
前面道路	南側 (市道1048号線)	北側 (市道1048号線)
建蔽率	80%	80%
容積率	240%	240%
敷地面積	993.489m <sup>2</sup>	534.845m <sup>2</sup>



## 6\_ 設計条件

### 東金市における居住者想定



ACシニア：都心で暮らしていた人々。東金市に元々住んでいて、退職後戻ろうとする動きが人口流動グラフより窺える。

シングルペアレント：全国に比べ、割合が若干高い事が統計調査より分かる。また、周囲に保育サービスが少ないため。

学生：周辺大学への進学者。他地方から進学のため訪れる学生の存在が人口流動グラフやヒアリングから分かったため。

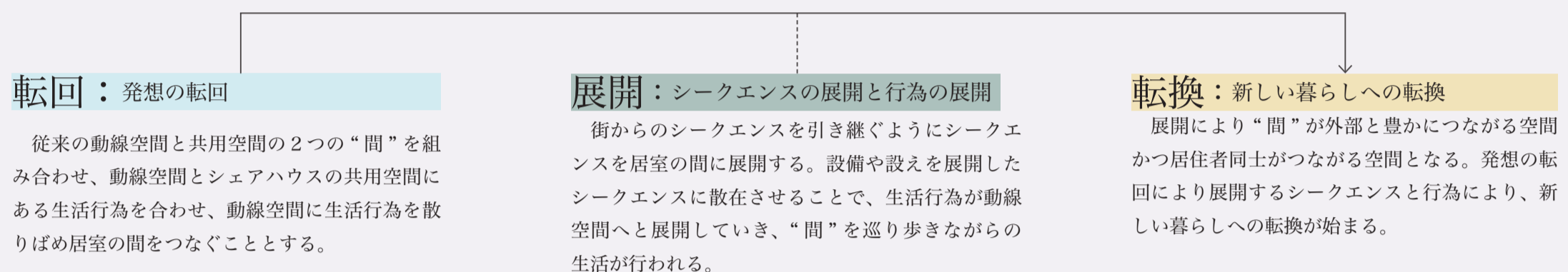
地域就労者：地域の高齢者等を雇用する（銭湯・パン屋）・土地を挟んだ向いに商業施設を計画し、この人たちを通して、移住してきた居住者が地域とつながるようにする。

### プログラムの設定



## 7\_ コンセプト

### 転回・展開・転換を創る“間”

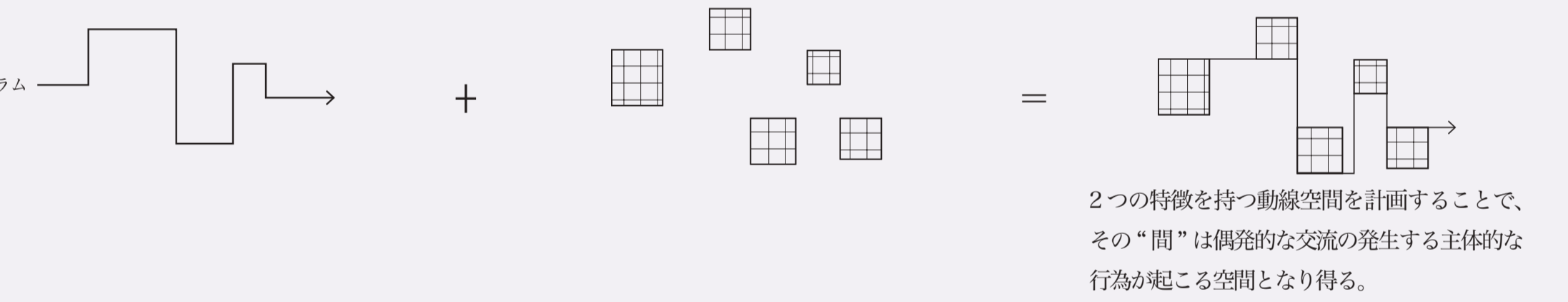


## 8\_ 転回：発想の転回

発想の転回を行う。  
 “間-あいだ”における考察。  
 現在は集合住宅における居室と外部をつなぐ間である動線空間と、シェアハウスの共用空間のように居住者どうしの間を構築する空間と2つがあると考えられる。

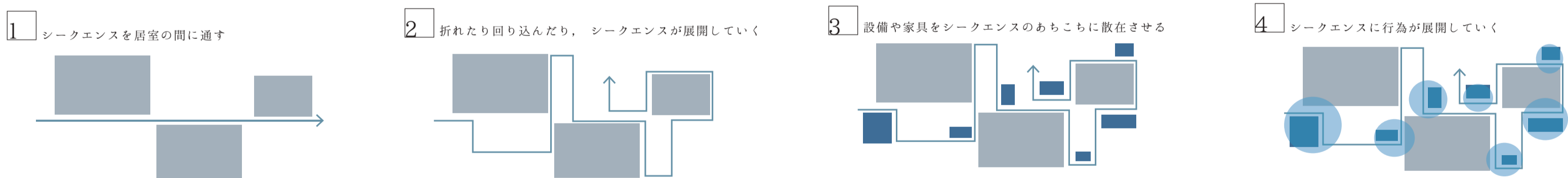


2つの空間を合わせることで、両者の問題点を補い合い、地域と豊かにつながり、居住者同士の交流が起こる“間-あいだ”が創造出来ると考えられる。



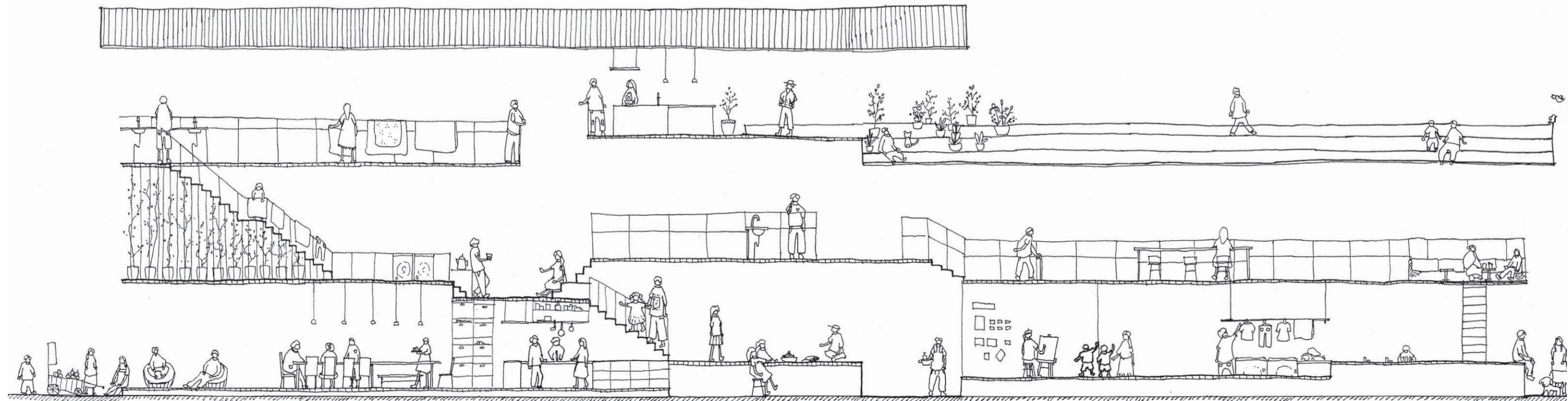
## 9\_ 展開：シークエンスの展開と行為の展開

転回にて考察した“間-あいだ”を実現するために、以下の設計手法をとる。



## 10\_ 転回：発想の転回

街からのシークエンスを引き継ぐようにシェアハウス内にシークエンスが連続して展開される。そこで起こる偶発的な交流は属性の違う居住者をつなぐ。そして空間的なゆとりある動線空間は、居室の緩衝空間として機能をする。発想の転回により展開するシークエンスとそこにちりばめられた行為により、新しい暮らしへの転換が始まる。



## 1\_1\_ 配置計画



街のシークエンスを取り込む配置計画を考える。取り込んだシークエンスが展開していく。  
 上図は想定される敷地へのアクセスのパターン。同じ色ごとに対応しており、敷地には駅（赤）・旧街道（緑）・線路の反対側（青）・からの3つと、Site B 北側駐輪場を通過するアクセス（黄）の計4つのアクセスが想定される。



## 1\_2\_ 行為と生活 / いくつかのパターン

さきに想定した居住者属性から、さらに詳細な生活パターンを調査より得た属性ごとの特徴をもとに想定する。また、その想定したパターンから生活の行為を書き出し、それらを動線で絡めるように展開していく。

### パターン1: 大学生

東金の大学に通う大学生。バイトや大学にいる事が多いが、夜遅くまで食事やランドリーを使うため、社会人が遅く帰ってきた際に会う可能性を作るのでは。また、予定がない時は高齢者や子どもと自然と合うように出来るが良いのでは。

### パターン2: 高齢者

基本的に朝早く、夜も早い、趣味の活動が外部へと出かけていききっかけとなる。地域とのつながりを担保する属性であり、また、シェアハウス内に多くいる属性でもある。内部で行う趣味の活動にしても場をいくつも変えられると良いのでは。

### パターン3: シングルペアレント

親は会社という場にも居場所があるが、子どもは地域（小学校など）とシェアハウスを行き来する属性。シェアハウス内でのつながりをつくる可能性もある。親が働いている時間、放課後の子どもを自然と見守るように、様々な居場所とそれにつながる動線を絡める必要がある。

### パターン4: 単身者, SOHO 使用

仕事場を居室の1つに持ち、また別の居室を寝泊まりに使用する。基本的に日中もいるため、シェアハウス内の居住者のつながりをつくる要になり得る。また、活動時間も夜遅くまでと考えられ、高齢者から大学生までと出会う可能性がある。生活行為が他の居住者と出会う可能性のある場があると良い。

### パターン5: アトリエ使用

アーティストや趣味で美術や工作を行う人。1階の居室を使い、中庭、デッキ、居室を連続的に使い、創作活動を行う。日中はほぼシェアハウス内で活動をする。中庭へと居室を連続させて使用することが出来る居室を設置することで、居住者からも様子を見たり、気配を感じたり出来るようになる。

### パターン6: 地域住民 / 短期滞在者

地域住民が軒下や銭湯などに入ってくることで、地域交流が生まれる。また、旅行者や居住者の親族などの短期滞在者。外部から新しい人が入ってきて、短期に入れ分けることで、適度な緊張感が生まれる。

## 1\_3\_ 様々な性格の空間と回遊する動線

配置計画で取り込んだ街のシークエンスに、生活のパターンで想定した生活の行為が、様々な性格の空間に拡がるよう、建築内に回遊する動線と補助動線によって展開していき、建築が構成されていく。

